

登録コード:MH289300 開講年度:2026		授業科目区分	専攻専門科目	必修
科目名	細胞診検査学実習【22M以降】 Cytopathology			
担当教員	木村 文一 太田 浩良			
対象専攻/学年、講義期間、曜日・時限	検査技術科学専攻/3年		後期	月曜・1時限 月曜・2時限
単位数、講義室	2 単位	保健学科 2 2 2 講義室	保健学科形態系実習室	遠隔授業科目
信大コンピテンシー	該当			
授業の達成目標	授業で得られる「学位授与の方針」要素		授業の達成目標	
	MH22カリ・保健			
	保健・医療の専門職者として必要な感性を磨き、基本的知識・技術を獲得して、さまざまな状況で活用できる。		実習を通して標本の作製方法及び良・悪性細胞の基本的な鑑別能力を身につける。	
	MH25カリ・保健・検査、MH23カリ・保健・検査			
	基礎的・専門的な知識と技能 保健・医療専門職者に必要な幅広い教養と基礎的・専門的な知識・技能を修得し、さまざまな状況で活用できる。		実習を通して病理検査の流れと方法を理解する。	
授業で学べる「テーマ」	科学的探求力 変化し続ける社会で派生する多様な課題に対して、地域・国際的な視点から、科学的・倫理的・道徳的・創造的に課題に対応していく探究心と、課題克服や目標達成に向けて生涯をかけて取り組む力が身についている。		講義と実習を通して、医療社会における細胞診検査のあり方を理解し、探究心を持つ力を身につける。	
	環境共生、健康長寿			
全学横断特別教育プログラム				
授業概要	細胞診検査の意義および細胞スクリーニング（正常細胞と異型細胞の鑑別）の方法および報告様式を学ぶ。また、細胞診検査材料の採取法および標本作製法を学び、その基本技術を習得する。 本授業は臨床検査技師としての実務経験を活かして講義・実習を行います。また、1年次に学んだ「組織学」「組織学実習」「系統解剖学」、2年次に学んだ「病理検査学」、3年次前期に学んだ「病理組織検査学実習」の知識を前提とし、4年次の臨床実習における重要な基礎知識になります。			
授業計画	第1回（9/28）細胞診検査の意義と流れ，細胞診検査法（材料別細胞診検査法，細胞診標本作成法，細胞診標本染色法，細胞診標本観察法，胞診標本評価法），組織検査・細胞診検査の精度管理，組織検査・細胞診検査の標準化 第2回（10/5）細胞観察と判定（正常細胞・悪性細胞と細胞所見）【学内実習】 第3回（10/14）頸部細胞診標本観察法・評価法【学内実習】 第4回（10/19）体部，胎盤等細胞診標本観察法・評価法【学内実習】 第5回（10/26）卵巣細胞診標本観察法・評価法【学内実習】／呼吸器の解剖組織・正常細胞 第6回（11/2）呼吸器細胞診標本観察法・評価法【学内実習】 第7回（11/9）細胞診検査（染色準備），細胞診標本作成（口腔細胞診標本観察法・評価法），検体の観察と処理・保存【学内実習】 第8回(11/16) 泌尿器の細胞診（膀胱）＜中間試験＞ 第9回（11/26）泌尿器の細胞診（腎臓・精巣）／泌尿器細胞診標本観察法・評価法【学内実習】 第10回（11/30）体腔液，乳腺 第11回（12/7）小児腫瘍の細胞診（小児腫瘍細胞診標本観察法・評価法）【学内実習】 第12回（12/14）甲状腺（甲状腺細胞診標本観察法・評価法）【学内実習】 第13回（12/21）解剖見学1，鏡検1（肝胆膵細胞診）【学内実習】 第14回（1／4）解剖見学2，鏡検2（唾液腺・食道・胃・大腸の細胞診）【学内実習】 第15回（1/18）精度管理と標準化，検査結果の解析と評価【学内実習】／病理遺伝子解析の意義＜授業アンケート＞ 第16回（1/25）＜期末試験＞スケッチ提出			
授業の進め方	本授業は、パワーポイントのスライド、配布資料、そして、板書に基づいて進めて行きますが、能動学習による理解の深化を目指すため、質疑応答にも重きを置いて展開していきます。染色標本の顕微鏡観察およびスケッチ。			
テキスト，教材，参考書	教科書： 1)第3版 細胞診断学入門 臨床検査技師・細胞検査士をめざす人のために(監修:社本幹博)(名古屋 大学出版会) 2) ポケットマスター臨床検査の整理 病理学/病理組織細胞学（医歯薬出版） 参考書： 1)最新臨床検査学講座 病理学/病理検査学 第1版(医歯薬出版) 2) Color Atlas of Cancer Cytology (Igaku-Shoin, Masayoshi Takahashi)			
成績評価の方法	中間試験、実習レポート、期末試験に基づいて総括的に成績を評価します。総合評価の配分は、中間試験、実習レポート、期末試験いずれも100点満点とし、中間試験、実習レポート各10%、期末試験80%の配分比率で合計したものを最終評価とする。合計が60点未満は不可とする。 中間試験は第8回(11月16日)、期末試験は授業最終日第16回（1月25日）に筆記試験、スライド試験、鏡検試験行なう。			

成績評価の方法	中間試験、実習レポート、期末試験では、細胞診の基本的技術、細胞穿刺方法、標本作成方法、染色方法および基本的な細胞診断（形態学的細胞の判定方法）に関する理解度を確認する。
成績評価の基準	成績評価の判定基準は、90-100点:秀、80-89点:優、70-79点:良、60-69点:可 【筆記試験の場合】 採点の基準は、行動目標に関連した設問に対する選択式解答の正誤だけでなく、記述式解答における用語の適切さ、説明内容の範囲の広さや詳細さ、説明内容の論理的な妥当性などを指標とし、授業で説明した範囲における、最低限の解答内容であれば「水準にある（可）」、やや詳細な解答内容であれば「やや上にある（良）」、十分に詳細な解答内容であれば「かなり上にある（優）」、授業で説明した範囲以上に自身で能動的に学修した詳細な解答内容であれば「卓越している（秀）」と判定します。 【レポートの場合】 (i)問題の設定が適切であり、(ii)その問題の背景を説明できており、(iii)その問題にどのような課題があるのかを指摘できており、(iv)それらの課題に対して既存の学説が提示する解決法が適切に把握できており、(v)その上で自分の理解を提示できており、かつ教員を感心させるレベルにあれば「卓越している（秀）」。(i)から(v)の5項目を満たしていれば「かなり上にある（優）」。4項目まで出来ていれば「やや上にある（良）」。3項目までできていれば「水準にある（可）」。
事前事後学習の内容	【事前学習について】 毎回の授業の終わりに、次回までに調べてくるべき予習（事前学習）内容について説明を行います。 【事後学習について】 毎回、授業のはじめに、前回の授業の要点について復習（事後学習）してきた内容や、能動学習として学んできた内容についての質問を行いますので、自分の言葉で端的にわかりやすく説明できるように準備して授業に臨んでください。 本授業の単位習得には、90時間の学習が必要であるため、以下のような学習時間を必要とします。 授業時間60時間(2時間×30回)+ 自己学習時間30時間(1時間×30回)= 90時間
学生へのメッセージ並びに質問、相談への対応	実習授業はテキパキと行動すること。質問や相談は随時受付ける。 質問への対応：随時受け付ける。木村文一kimura_f@shinshu-u.ac.jp オフィスアワー：随時 保健学科中校舎3階 木村文一研究室